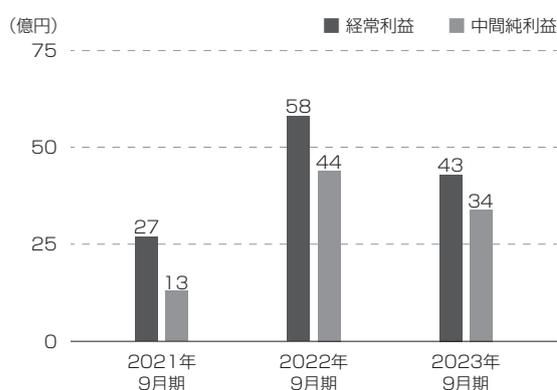
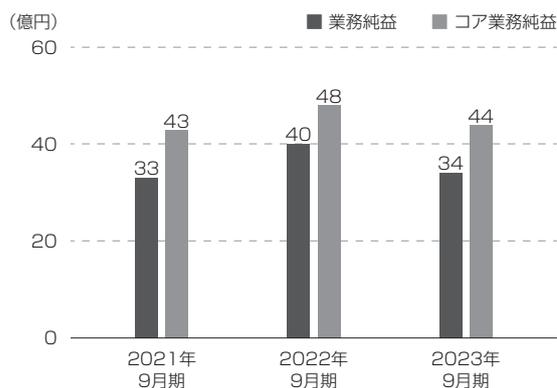


業績ハイライト(沖縄銀行・単体)

損益状況

2023年度中間期の本業の収益力を示すコア業務純益は、貸出金利息、その他受入手数料及び有価証券利息配当金は増加したものの、基幹システム更改に伴う経費の増加などにより、前年同期比4億円減少の44億円となりました。

経常利益は、コア業務純益の減少、ポートフォリオ見直しによる有価証券関係損失の増加及び与信費用の増加により、前年同期比14億円減少の43億円となり、最終の中間純利益は前年同期比10億円減少の34億円となりました。



用語解説

【業務純益】

銀行の本来業務(預金・貸出など)で得た利益を表すもので、一般企業の「営業利益」に相当します。

【コア業務純益】

業務純益から「一般貸倒引当金繰入額」、「国債等債券関係損益」など大きな変動要因を除いた純粋な収益を表すものです。

自己資本比率

銀行経営の健全性・安全性を測る上で重要な指標のひとつである自己資本比率は、2023年9月末において9.59%となっており、国内基準の4%を大きく上回っています。



用語解説

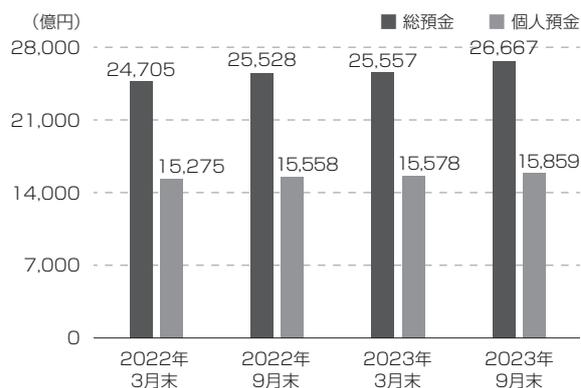
【自己資本比率】

自己資本比率告示に基づき、総資産に占める自己資本の割合で、銀行の健全性を示す重要な指標の一つであり、比率が高いほど安定した経営といえます。なお、海外に営業拠点を持つ銀行は8%以上(国際基準)、沖縄銀行のように海外に営業拠点を持たない銀行は4%以上(国内基準)であることが求められています。

預金

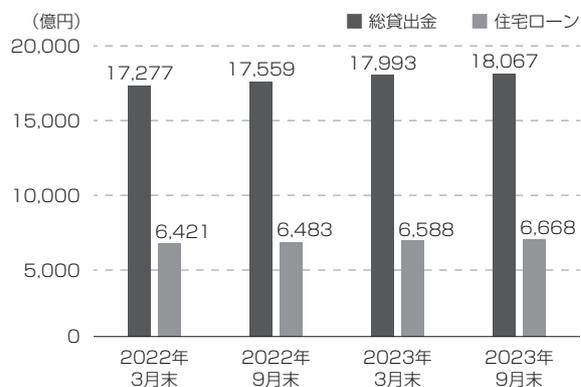
2023年度中間期末の総預金残高は、新型コロナウイルス感染症の5類移行による経済活動の活発化に伴い法人預金が増加したことに加え、公金預金及び個人預金も増加した結果、銀行・信託勘定合計で前年度末比1,109億円増加の2兆6,667億円となりました。

沖縄銀行では、多様化する資産運用ニーズにお応えするために、国債や投資信託、個人年金保険などを取り扱っており、お客さまの資産形成を積極的にサポートしています。



貸出金

2023年度中間期末の総貸出金残高は、経済活動の再開に伴う資金需要への積極的な推進及びコロナ禍における継続的な資金繰り支援による事業性貸出の増加、ハウスメーカーとのリレーション強化やスピード審査等による住宅ローンの増加などに積極的に取り組んだ結果、銀行・信託勘定合計で前年度末比73億円増加の1兆8,067億円となりました。



有価証券

有価証券は、国内債券及び投資信託等を中心に、金融市場動向を睨みながら資金の効率的運用に努めた結果、期末残高は前年度末比87億円減少の4,644億円、有価証券全体の評価損益は前年同期比75億円減少の△153億円となりました。なお、2023年度中間期の有価証券運用に伴う利息・配当金収入は27億円となっております。

